

# 公共空間整備における市民参画意識の醸成施策に関する実践研究

## - JR 柳ヶ浦駅周辺整備事業を対象として -

日大生産工(学部) ○小田部 匠 文本 匠  
日大生産工 永村 景子

### 1. はじめに

近年、地方での人口流出や少子高齢化が深刻化しており、地域コミュニティの維持が困難となっている。このような社会的背景の中で、持続可能なまちづくりを展開するためには、市民自身はそのまちが抱える問題を認識し、積極的に課題解決に取り組めるような市民参画型のまちづくりや、市民が愛着をもって管理活動に参画できるような公共空間づくりが必要不可欠といえる。しかし、実際の市民参画の場では、参加者が少なかったり、参加していてもメンバーが固定化してしまったりといった問題が生じ、市民のニーズに十分に答えられないまま公共空間づくりが行われているケースが少なくない。

本研究の対象地であるJR柳ヶ浦駅(大分県宇佐市)では現在、市の玄関口として、駅のリニューアルおよび駅前広場新設から成る公共空間整備が行われている。また、市民参画の場として、これまで市民ワークショップ(以下、「WS」)やモノづくりWS(写真1)が行われてきた。しかし、積極的に公共空間整備に携わる市民は地元住民など一部にとどまっており、そもそもJR柳ヶ浦駅を利用したことがないという人も少なくない現状である。

そこで、本研究では公共空間整備における市民の参画意識の醸成を図ることを目的として、市民の参画意識の醸成過程を把握し、空間整備後の利活用に向け、有効な参画意識醸成施策を検討・試行する。



写真1: モノづくりWSの様子

### 2. 研究対象事業の概要

宇佐市の玄関口であるJR柳ヶ浦駅は、柳ヶ浦高校の学生等の通学・通勤に利用されていたが、駅前ロータリーは列車の到着に合わせて送迎車や歩行者、自転車が錯綜していた。さらに、駅舎も老朽化していることからリニューアルを求める声が多く寄せられていた。そこで、宇佐市では、「安全に集い・安心して憩い・地域を想う」まちの結び目の創出」をコンセプトに、基本計画を平成29年3月に策定、平成30年度からJR柳ヶ浦周辺整備事業の取組みを始めた<sup>1)</sup>。令和3年度からは駅前整備に着手しており、現在はJR柳ヶ浦駅周辺整備事業の最終工事となる駅前広場(憩いの広場、公共交通ロータリー等)の整備が行われている。

### 3. 研究方法

本研究ではまず、市民の参画意識の醸成過程を把握するため、駅利用者や市民を対象に、アンケート調査を実施し、現状の市民の参画意識や整備の進行に伴う意識の変化について把握する(4章)。また、アンケートの分析結果から、現段階における市民参画に関する課題を設定し、市民に対し積極的な参画を促す施策を検討する(5章)。

### 4. 市民参画意識の変化の調査・分析

市民の参画意識の醸成過程を把握するため、JR柳ヶ浦駅にて、宇佐市の公共空間整備事業中間評価アンケートの一環として、駅利用者や市民

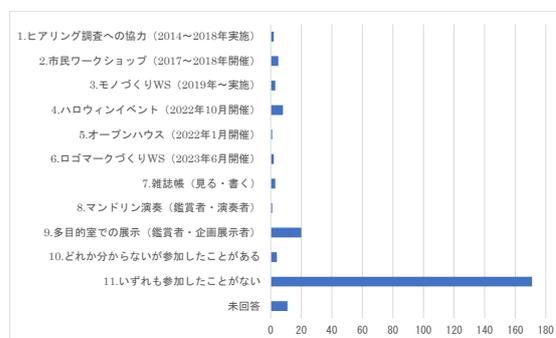


図1: 今まで参加したことがある取組み

Town Planning Aiming for Citizen Participation in Public Space Construction  
- A case study of the JR Yanagigaura Station Area Development Project -

Takumi KOTABE, Takumi FUMIMOTO and Keiko NAGAMURA

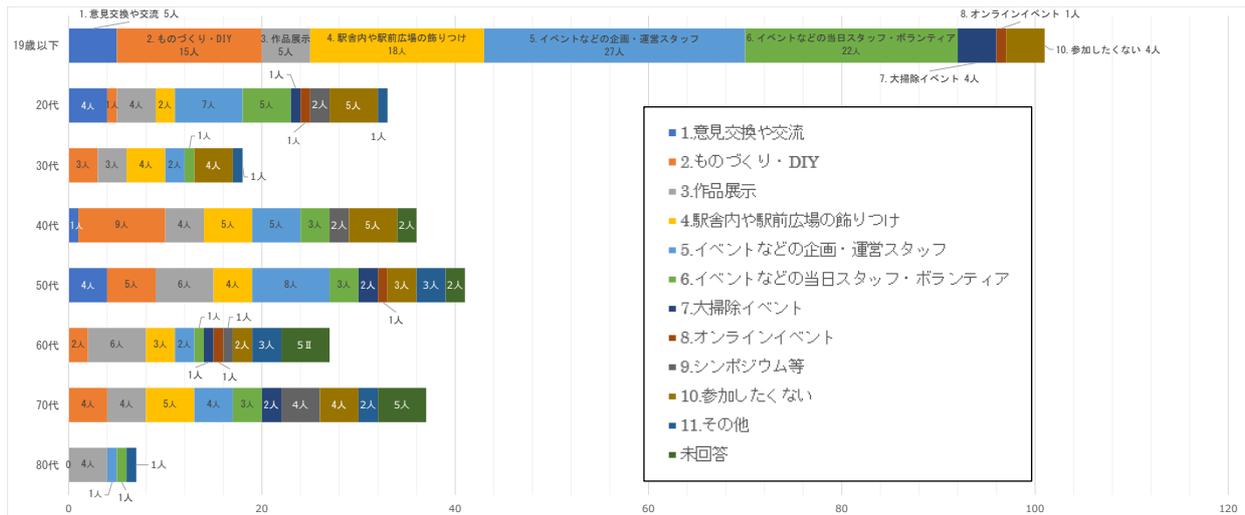


図2：今後参加してみたい事業（年代別参加意向）

を対象に、参画実績や参画意識に関するアンケート調査を実施した。

アンケートは、駅利用状況や駅舎改修・駅前広場整備に関する印象・ニーズ、まちづくり参加状況など、選択式9問および自由記述1問の計10問で構成した。そのうち参画意識に関する質問事項は「JR柳ヶ浦駅・駅前広場に関連して開催された取組みやイベントへの参加・来訪経験（以下、設問7）」や「今後の参加意欲および参加してみたい企画・イベント（以下、設問8）」でいずれも選択式とした。

実施にあたって、1日辺りの平均乗降客数1,091人に対し、一定の精度を確保することとし、信頼度90%、許容誤差5%、回答率50%と設定し、必要サンプル数は213票以上とした。対面にてアンケート用紙を配布・回収し、帰省や観光客を見込んだ2023年8月10日9時～18時と、日常的な通勤・通学客を見込んだ2023年9月22日9時～17時の2日間で、計218件の回答を得た。ここでは、紙面の都合上、設問7・8のみを示す。設問7の集計結果をみると、「11.いずれも参加したことがない」と回答した人が171名と最も多く、これまでの取組みやイベントには、不参加であった回答者が多いことがわかる（図1）。図2は今後の参加意向について、設問8の回答結果を年代別にグラフに示したものである。機会があれば参加してみたい人は多く、特に「19歳以下」「20代」「50代」では「5.イベントなどの企画・運営スタッフ」の選択割合が最も大きい。さらに「19歳以下」「20代」は「6.イベントなどの当日スタッフ・ボランティア」と回答した人も多く、参加意欲がうかがえる。他の年代と比較しても、19歳以下は「10.参加したくない」の回答割合が小さく、参加意向が高い傾向にあるといえる。

## 5. 市民参画意識醸成施策の検討

前章のアンケート結果から、参加意欲があるにもかかわらず、これまでの取組み・イベントへの参加経験がない利用としては、市民参画自体のハードルが高くなってしまっていることや、学生が参画しやすい機会が少ないことが考えられる。これをふまえると、今後の市民参画の場には、以下の要素を含んだ施策が必要である。

- ・誰でも気軽に参画できる簡易性
- ・幅広い世代の関与が可能な親和性
- ・10代の学生の興味・関心を引き出す話題性
- ・整備事業完了後の空間への愛着や積極的な利活用に繋がる継続性

## 6. 結論および今後の展望

本研究の成果を以下に示す。

4章では、アンケート調査を行い、現状の市民参画意識の醸成過程を把握することができた。

5章では、空間整備後の利活用を見据えた有効な市民参画意識醸成施策の検討ができた。

今後は、本稿に示したアンケートの分析結果をふまえ、具体的な市民参画意識醸成施策の検討・試行することが課題である。

**謝辞：**本研究を進めるに当たり、大分県宇佐市役所都市計画課の皆様、合同会社アトリエ T-Plus 建築・地域計画工房社様に多大なるご協力を頂きました。記して謝意を表します。

### 参考文献

- 1) 宇佐市, JR柳ヶ浦駅周辺整備の取組み, <https://www.city.usa.oita.jp/sougo/soshiki/14/toshikeikaku/toshishisetuseibi/2580.html>, (最終閲覧 2023. 10. 12)